

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・現状の課題：生徒のコミュニケーション能力の育成
- ・手 だ て：音声を重視したコミュニケーション活動を軸とした授業改善

具体の取組の内容

- ・東京学芸大学金谷名誉教授を招き3度の英語科校内研修(1度は全職員参加)
- ・東京学芸大学金谷名誉教授、埼玉県教育局北部教育事務所指導主事を指導者とし、秩父地区中高英語研究連絡協議会と連携した公開授業研究協議会を実施。(対象:秩父郡市小中高英語科担当教員)
- ・研究発表会は、北部教育事務所管轄小中高等学校対象に2月15日実施予定。(参加予定60人以上)



成果①

- ☆3年生英検3級以上取得者
昨年度:29%
→今年度:32%
(今年度のCEFR A1相当レベル以上の取得率49%)
- ☆生徒が授業中に英語で活動する時間の増加
年度当初約30%
→現在約60%と増量

成果②

英語による発問・指示、生徒の発言への切り返しの技能が向上により、英語学習への抵抗感の減少、言語活動の活性化等、授業の流れがスムーズになった。

スモールトーク
トピックトーク
クラスルームイングリッシュ
技能の向上

今後の課題・方向性

- ・英語による生徒とのやりとりの質を向上させ、言語活動を充実させて、生徒の英語力を育成することが課題である。
- ・コミュニケーションの土台となる6つの汎用的能力の育成を中学校の全教育活動及び小学校、高等学校との連携等を通して啓発していく。